令和7年度 愛知医科大学大学院看護学研究科 海外研修報告書

氏 名	看護学研究科 小児看護学領域 小酒井彩香	研修先	マハサラカム大学
学 年	1 学年次生	研修期間	2025年8月2日~2025年8月9日
主な	・タイ王国とマハサラカム大学の看護教育・タイ文化についての講義		
研修内容	・マハサラカム病院内見学:周産期病棟(産科病棟, NICU 病棟)と緩和ケア病棟		
	・タイの伝統医療体験		
	・リサーチフォーラム:自身の看護師経験と研究に関するプレゼンテーション 等		

報告内容

1 志望理由と研修での具体的な学びについて

(1) 志望理由

海外の医療・看護における価値観や文化の違いに興味があり、入学前から国際交流プログラムに関心がありました。

病院で伝統医療が提供されているなど、日本とは異なる文化や価値観がある タイ王国における周産期医療や看護を見学・体験することで、自身の研究に関 連する知見も広がると考えたため、本研修への参加を志望しました。



(2) 学んだこと

看護教育の講義と見学の中で、実践に即した形で看護を学ぶためのシミュレーションシステムを体験しました。疾患の鑑別から治療方針を検討する過程を、症例に基づいた実践を通して学ぶことができる構成となっており、知識と技術を統合しながら学べる教育環境であると感じました。文化に関する講義では、音の高さによって意味が異なるタイ語の特徴や、伝統的なお祭りや踊りなどを聴講・体験することで、豊かな文化の理解を深めることができました。

マハサラカム病院見学では、研修前に希望した周産期医療の現場を見学させていただくことができました。 看護師長から病棟案内を受けて、実際に入院している子どもに付き添う親と、会話を通して交流する機会をい ただき、国や文化的な価値観は違っても、入院する子どもを心配し、成長を願う親の気持ちは変わらないこと を実感しました。また、緩和ケア病棟の見学ではベッドサイドに仏像が置かれていたり、外来では待合が建物 外にもあり気温も湿度も高い屋外で多くの患者が診察を待っていたりと、文化的な違いに衝撃を受けました。

リサーチフォーラムでは、日本の新生児看護の実際について、これまでの看護師経験を説明した上で研究テーマを発表しました。日本との医療提供体制の相違点や早産児への看護ケアの詳細に関する学生からの質問に対して、英語で討論することを通して多くの学びと気づきが得られました。また、先生方からは研究テーマに対する研究方法等の助言をいただくとともに、研究に関する具体的な意見交換をさせていただきました。これらのような貴重な経験ができたことは、私にとって本研修における最大の学びとなりました。

2 海外研修への参加を考えている学生へのメッセージ

毎日濃密なスケジュールを組んでいただき、書ききれないほどの貴重な体験ができました。渡航前は語学力に不安もありましたが、現地では気づきや疑問が湧き出てくることがきっかけとなり、学生や先生方、医療スタッフとも自然に交流を持つことができました。また、帰国後も学生や先生方との交流が続いていることは、私にとって大きな財産となっています。少しでも海外研修に関心があるのであれば、勇気を出してぜひ挑戦してほしいです。